

# 2025 年度事業計画書

自 2025 年 4 月 1 日

至 2026 年 3 月 31 日

社会福祉法人 こぼと会

## 社会福祉法人こぼと会 保育部門 2025 年度事業計画

今年度の保育テーマ

### ～理念の拡大～

昨年度も理念の追求に焦点を置いて取り組んできた。理念の行動指針はいわゆる P D C A サイクルをもとに形成されており、継続的に実践を通してスモールステップを踏むことで、職員自身の成長を後押しすることができ、良い職員集団の形成に不可欠なものとして位置付けた。しかし、園によつての実行に差があり、マネジメント力の差になってしまうが、これも個人の問題に帰結するにはあまりにも酷なことであり、法人全体としてできることを実践していくため、4 施設の 1 歳児クラスを対象とした保育研修を行った。

研修を始めるにあたり、共通のテーマを設定し、根拠を共有するところからスタートし、実践に合わせて子どもの姿の変化をお互いに理解しあいながら進めていった。研修を重ねるほどに、保育の理解と理念の理解がシンクロしていき、仕事を通じた、子供の成長を通じたチームの達成感を得ることになっていった。このことは、初めて体験することでもあり、共通理解を作っていく可能性を大いに感じた瞬間であった

各園のマネジメントが重要ではあるが、その効果を高めるためには、法人全体での共有の在り方がいかに重要かを示唆するものである。今までは、法人研修の場しかなかったわけであり、1 年に 1 回の熱量では全体にその熱が伝わるには時間が空きすぎていたことが理解できたわけである。

昨年の実績踏まえ、今年度は理念の理解の拡大を目指す。理念は上記の通り PDCA サイクルで構成されている。子どもに対し、保護者、職員、地域に対し須らく同じ流れを持つものである。であるので、どこかの部分だけうまくいくということは起きづらく、基本的に同じ考え方の上に行動、試行しやすいものである。ある意味癖、性分という質のものである。

この質は、過去の経験則に基づいて築き上げられたものであるもので、簡単に変化させられるものではない。脳科学でいう「脳は変化に抵抗する」特性はまさしくこの点である。であるがゆえに、理念の流れを意思を持って行動することは、その質に対して抗うこととなり、今までの経験則から離れて物をとらえられるチャンスでもる。

例えば、自分で「〇〇しなければ」と考えていること、保育の局面では生活に絡められてくるのでとても表れやすい。無意識に行ってしまうこともほとんどで、それは言葉にすればその人の自然な流れである。しかし、そのことが第三者に対しどういった影響を及ぼすかは顧みることがない。理念をもとに話し合うことでこの流れに歯止めをかけ、第三者に対する配慮が見えてくるのである。云えば、この配慮はまさしく他者への愛であり、理念の拡大がその人の持つ愛を深めるものであると確信している。

この信念を相互理解をもとに一人一人の職員の心に育み、そしてそれが個人のパフォーマンスに寄与する基となり、ウェルビーイングの高い職場環境になるよう法人としての共同研修を毎月行うことをテーマに1年を通して活動していきたい。

## 1 施設運営

### (1) 児童の処遇

#### ア クラス編成

#### ① 【こぼと第一保育園】 定員 130名

クラス名	年齢	保育士数	園児数	備考
ポピー組	0歳	3名	10名	
つくし・れんげ組	1歳	4名	20名	
チューリップ マーガレット組	2歳	4名	24名	
ゆり組	3.4歳	2名	23名	
ばら組	3.4歳	2名	23名	
カンナ・コスモス組	5歳	2名	30名	

#### ② 【あおぞら保育園】 定員 120名

#### ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	備考
ひよこ組	0歳	3名	10名	
りす組	1歳	3名	16名	
うさぎ組	2歳	3名	20名	
ぞう組	3歳	2名	23名	
きりん組	4歳	2名	24名	
らいおん組	5歳	2名	27名	
ばんだ組	一時・定期	2名	10名定員	
誰でも通園	3か月～ 3歳未満	2名	3～5名	

#### ③ 【あおおらぱれっと保育園】 定員 107名

クラス名	年齢	保育士数	園児数	備考
もみじ組	0歳	3名	6名	
あんず組	1歳	3名	15名	

たんぽぽ組	2歳	3名	20名	
もり組	3歳	2名	22名	
うみ組	4歳	2名	22名	
にじ組	5歳	2名	22名	

#### ④【あおぞらルーム】

クラス名	年齢	保育士数	園児数	備考
	1歳	4名	6名	
	2歳		6名	

#### イ 健康管理

健康診断

0歳児 毎月

1歳児～ 年2回（4月、10月）

歯科検診 年1回（6月）

#### ウ 保育

下記の内容を参考とし各クラスの保育のねらいが連動し、0～6歳までの子どもの脳や身体の発達に即した援助技術が、子どもの「イキイキ、わくわく」につながる実践を今年度の目標とする。

## 保育の基本方針

法人理念に基づいた行動がすなわち保育の基本姿勢である。「子どものために」をスローガンに謙虚に自分自身を洞察し、「知る」喜びを通して成長し合える職員関係を築くことが重要となる。

そのためにも、主観ではなく客観性を下にした根拠ある考えを中心に据え、例えば若い職員であれば、わからないことを具体的に質問したり、リーダー層であれば、相手のわかる喜びを引き出すためのヒントを出したりと、お互いが切磋琢磨できるための環境作りに努力し、それが子どもの最善の利益へ結びつくようにしていく。これが基本方針である。

#### ◎ 0歳～2歳半までの保育

- ・ 担当制をとることにより人間形成にとって一番大切な愛着関係を深め健康で安定した生活を確立していく。

- ・ 子どもの脳や身体の成長変化の一番大きい時期である。それぞれの成長の特徴を理解したうえで、個別の配慮を第一にしながら、将来を見通した援助を心掛ける。
- ・ 子どもの内発的な動機を刺激するよう絶えず環境を見直し、安全性に配慮しながらもチャレンジできる遊具、用具を多く取り入れる。
- ・ 家庭との連携を密にし、24時間の生活リズムを考慮した対応を心掛ける。

### ◎ 2歳半～5歳までの保育

- ・ 言語の発達とともに多様な人間関係を通してコミュニケーションの土台を作る大切な時期である。特に、知的好奇心が多いに発露する時期であることから、室内、戸外での心を躍らせるような体験が子どもの成長を大きく進展させる。子どもの自己実現を後押しできるよう工夫を重ね、小集団での仲間づくりの達成感を味わえるよう配慮する。
- ・ 3歳ごろから記憶を司る海馬の発達がとても活性化する時期と言われている。お話やメモリーゲームなど覚えて楽しめる遊びを多く用意し記憶を刺激するとともにゲーム性を生かしたルールの標準化を図っていく。
- ・ 再現遊びをするとき脳内の活動は盛んになり、いろいろな脳内のつながりができるといわれている。「ごっこ遊び」を通して、役割を交代することで友達との関係性を学んだり、役になりきることで、達成感や創造性を高めていく。

### ◎ 5歳児以降の保育

- ・ 5歳児を過ぎた子どもたちは、自然と学びの態勢が出来上がってくる。また、過去から未来への時間的概念が育つことにより、子ども同士の共有性が一気に花開くようになる。集団もだんだんと大きくなり行事などの目標を持ちながら所属感を強くし、育ち合いの気持ちを整ってくる。こういったことを念頭に子ども同士で話しあう経験を多く持ち、協調と共同の姿勢を作るような保育を心掛ける。
- ・ 就学に向けて子どもの期待を膨らませながら、個々の課題を確認し競い合う楽しみや周りの友達をいたわる経験を多く積むようにする。

### ◎ 個別的配慮を必要とする子どものために・・・

- ・ 個人差を受け入れるために、その原因を追究するとともに、個人ベースでの配慮点を職員間で共有できるベースを作り上げることに専心する。
- ・ 感覚統合的視点や行動科学的な視点を取り入れ、子どもの立場に立った援助を職員で共有化し、仮説、実践、評価を繰り返しながら少しでも効果的な保育を追究していく。
- ・ 子ども自身が達成感を得られるような配慮を一番大切なポイントとし保育に当てる。

## 地域事業

### 地域社会との連携

子ども家庭支援センター子育て広場たまっ子、居場所事業リバティとしっかりと連携を図りながら、保育園の持つ専門性を地域に発信し、地域の利用者の安心を作り出していきたい。

### 主な行事予定

- 4月 入園式、保護者懇談会
- 5月 遠足
- 6月 お泊まり保育
- 7月 プール開き
- 9月 保護者懇談会
- 10月 運動会、ハロウィン行事
- 11月 遠足
- 12月 年長バイキング、子ども会
- 2月 保護者懇談会、新入園説明会、年長お別れ遠足
- 3月 卒園式
- 月例行事 誕生会、

### エ 栄養管理

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成  
季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成  
給食供給者としての諸管理

### オ 安全管理

交通安全教室（ 4月予定 ）  
非常災害時の避難訓練 毎月  
引き渡し訓練の実施（ 9月 1日）

## （2）職員の処遇

### ア 職員構成

	園長	主任	副主任	保育士	看護師	栄養士	調理員	事務
こばと第一保育園	1名	1名	1名	15名	1名	1名	3名	1名
あおぞら保育園	1名		2名	20名	1名	1名	3名	1名
あおぞらパレット保育園	1名		3名	14名	1名	1名	3名	1名
あおぞらルーム	1名		1名	2名				

## イ 健康管理

健康診断 年 1回 ( 4月)

細菌検査 年 2回

給食、0歳児調乳担当のみ毎月1回

保健健康委員の活動 毎月

保健師が中心となり、ストレスチェックなど職員の健康にかかわる取り組みを毎月行っていく

## ウ 職員会議

定例会 毎月 1回

行事前打合せ会 (随時)

研修会議 毎月 1回 (4園による合同研修会)

副主任会 (随時)

クラスコーディネーター会 (随時)

## エ 研修計画

○島田療育センター作業療法士による感覚統合研修 (年6回)

○毎月園内研修会議を行う

外部研修での積み上げを職員中心にチームを組んで推し進めていきたい

○リーダー研修会議 (可能性コンサルティング主催：法人研修)

## オ 退職・福利厚生

○福祉医療機構退職共済制度加入

○東京都社会福祉協議会従事者共済会加入

○健康検診受診

○インフルエンザ予防接種

## 2 施設管理

### (1) 事務関係

#### ア 会計事務、管理事務

会計管理は、社会福祉サービスセンターと業務提携を結び、毎月の事務管理を協力して行う。労務管理は、多摩労務事務所と業務提携を行う。

#### イ 児童処遇事務 (保育、給食、健康管理)

保育システムを導入しており、出席管理など一元的に管理できるものは、省力化も含めパソコンを通してのデータ管理を行う。

保育については、ソフトを使った情報の収集を心がけ、事務の省力化と、仕事の可視化を目指していく。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

毎月初日に安全点検を主任保育士、保健師立会いの下行う。(安全衛生委員会)

(3) 備品関係

ア 備品購入予定

適宜そのときの状況を鑑み、購入を検討

イ 保育用品購入予定

乳児・幼児のおもちゃを発達ごとの課題をしっかりと押さえていけるように積極的に購入する。特に、紙製、木製のものでは、痛み・損傷の度合いによりきれいなもの、子どもが扱いたいと思う観点から購入を進めていく。

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回。必ず消火訓練(実地)を行う。

イ 防災設備の点検委託

年2回(内、届け出1回) 富士消防設備に委託

ウ 非常食糧の備蓄

○ (全児童数+全職員数) × 3食 × (3日) 分